礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
高塔印刷　㈱2987

国立大一本化へ

―五十四年入試から―

五十四年入試から、国立大の共通学力テスト一本化が実施される。ますます狭くなる国立大の門。国立大に続いて公立大も共通学力テストが実施されるという。生徒たちはどのように考えているだろうか。

諸君らが今、一番気になっているのは、五十四年入試からの国立大学の一本化・共通学力テストの実施だろう。

そこで、まず共通学力テストについて、その概略を知っておこう。

この共通学力テストというのは、国立大を受験する、あるいは受験しようとする人に対して全国共通に行う学力テストで、これを受験しなければその年度の国立大入試を受験できないというもの。そのため、共通学力テストは正式には国立大学共通第一次試験と呼ばれ、この結果と、その後各大学で行う入学試験（二次試験）の結果とを合わせて合格・不合格を決めることになる。

また、この共通学力テストのねらいは、

①まぐれ合格などのハプニングをなくし、本当に実力ある者を合格させることが出来る。

②高校3年間の学習の理解度を幅広く判定することができ、受験生の普段の学習の実力を見る事が出来る。

③大学で行なう二次試験は現在の入試科目よりも科目数を減らすことが可能で、これによって受験勉強の行過ぎを改めることが出来るというもの。

次に、この入試科目は、

▼国語＝現代国語・古典Ⅰ甲。

▼社会＝倫理社会・政治経済・日本史・世界史・地理A・地理Bから2科目選択。

▼数学＝数学一般または数Ⅰのいずれか。

▼理科＝物理Ⅰ・化学Ⅰ・生物Ⅰ・地学Ⅰから2科目選択。但し基礎理科でも受験できる（この場合は1科目）

▼外国語＝英語B・独語・仏語から1科目選択。

の、五教科で、試験時間は1教科百二十分以内、試験は土、日の二日間にわたって行われるらしい。

また、この共通学力テストは三十～四十万人が受験するものとみられているから、マークシート方式（正解の番号を黒く塗りつぶす）が採用され、コンピュータで採点するそうだ。

以上が、共通学力テストのアウトラインだが、国立大だけでなく、公立大も国立大と同時に五十四年入試から共通学力テストが実施される可能性も強く、公立大全校三十三大学中二十七・八校が、すでに共通学力テスト利用を考えている。

次に、国立大の一本化について、その概略を知っておこう。

もちろん、国立大は1回しか受験できないが、その上、大学の入学難易度は大きく変わり、私立大まで含めた大学志望パターンはかなり変化しそうだ。「受験生にとっては不利になるのに、なぜ？」と思うだろうが、これには、

①国立大のレベルの平均化。

②共通学力テストの効果を高めるため。

の二つである。

諸君らは、この改革に備えて勉強をやっているだろうか？

ゼヒ～始めよう。

主張

無心に生きるということ

私達人間は、常に他人を気にしながら生きている。他人のちょつとした言葉がカチンと頭にきたり、何でもないような行動に、いちいちけちをつけてみたり、そこまでいかないまでも、心の中から、冷たい視線を送ってみたり……。又、他人の言葉や素振りに、くよくよ悩んだり、しょんぼりしてしまったり……。

どうしてここまで、私達人間は、他から左右されながら生きているのだろう。それは、人間社会が複雑だからだと言ってしまえば、それまでだが、ある意味では、人間社会より、動物社会の方が複雑なのではないか。人間社会を構成しているのは、人間という一種類の生き物だけだが、動物社会は、その何倍もの種類の生き物によって構成されている。その中で、彼らは、生きるために裏には〝死〟を控えたような鋭く、きわどい〝生〟を営んでいる。そして、それは、肉食獣の恐ろしさ、狐のずるさ、禿鷹のあくどさ、こうもりの無気味さ等人間社会では、否定されるようなことが、肯定され、なおかつ、円滑に営まれている。これは、なんと素晴らしいことだろう。

よく、「考えることをしない人間は動物と同じだと言われる」しかし私は、そうは思わない。動物と同じである人間は、何もかも人間や人間社会のことを知りつくしていて、何事にも動じない、そして、無心で純粋な人だと言いたい。こういうと、なんだか、人間の方が動物より劣っているように聞こえるかもしれないが、そうではない。私は、その無心さが欲しいのだ。他のことは構わないで、ただ、一つのことだけに心を広く広く開いているような、そんな無心さ。

無心さを持つ人間は、ものすごく強く、限りなく弱いと思う。何物にも脅かされず、又、何物も脅かさず、常に遠くをみつめているかさと、純粋でどうしようもない強さと、純粋でどうしようもないくらいに折れそうな弱さを持つ人間、そういう人間こそ、他人のことに腹を立てたり、ごちゃごちゃ文句を言ったり、くよくよしたりしない人間だと思う。

「私達は、独りで生きているわけではない。他人のこともよく考えるべきだ。」それは確かにまちがいではないだろう。自分のことばかり考えていたのでは、他人を傷つけてしまうだろう。しかし、そういう意味で、他人を考えないというのではなく、もっと広い意で、他人にこだわらず、こせこせしないということだ。

私達のこの短い一生を、他人のことに、こだわって過ごしてしまうなんて、実にもったいない。まして、今、現在の私達の若い時には、なおさらだ。

もっと自由に、もっと純粋にもっと無心に、もっと広々と、草原を駆ける動物達のように、何事にもこだわらずに生きる。これが、今の私の一番の願いである。

四時の汽車対策案実施へ

●清掃●終会を機敏に

前号の新聞で、若松四時五分発の汽車に間に合うようにと国鉄利用者の訴えを掲げた。この後さっそく、生徒会によってアンケートが行なわれた。その結果報告と生徒会の案を発表することにしよう。

①掃除の当番制
②授業時間の短縮
③終会を早く
④始業を早く
⑤国鉄へ交渉

①の掃除の当番制について、現在の我校では、全く実施されていない。これが具体的に実現すればまず、終会と掃除の時間帯を入れ換えしなければならないだろう。そうしないと終会の出席状況に問題がおきる。

次に②の授業時間の短縮について、これは皆さんも考えてみればおわかりいただけると思うが、授業時間を短縮すれば、県の教育方針に問題が起き、この問題を実現するのは、ここ十年は無理だろう。

次に③の終会を早くという問題に関して、終会の時間全体を早くすれば、その前までの時間を早くしなければならないが、その時間が取れるような余分な時間はない。だから、終会の内容をもっと機敏に、先生ももう少し、無駄な事は省くようにする、という事で、少しは可能性がでてくる。

次に④の始業を早くという問題だが、土曜日のように、八時四十分から一時間目を始めるという素晴しい案があるが、現在、遅刻する者が、たいへん多いので可能性が少い。

最後に、国鉄へ交渉という意見がある。しかし、汽車のダイヤを遅らせれば、まず折尾、中間、直方、新飯塚等の他の汽車との連絡が、不規則になるため、国鉄は、まず了承しないだろう。

ここで生徒会の案として

①時間のけじめをつける
②放送部と協力
③先生方へ終会をできるだけ早くすませ、簡結にする。

この3つの案を同時に要請して、職員側と放送部と了解を得て今行なわれているのだ。

皆さんも気付いていると思うが、現在掃除時間に音楽が流れているのは、掃除の雰囲気をよくするためとか、そういう意味での音楽ではない。この音楽は、終会と掃除の時間を区別するために流されているのである。

生徒会と職員会は、次のような事を大きく主張している。

六時限目終了は、三時二十分、それから十分間掃除、その後五分間で終会を行なえば、下校時刻は、三時三十五分～四十分となる。だから時間帯をもっと機敏にして欲しい。

これに従って放送部が、音楽を流しているのである。又、職員会もこれを了承して、先生方も終会を早くすませるように、している。

ここで、①の案の時間のけじめをつけるというのは、生徒側に重点にして要求されたものである。

四時の汽車に乗れる方法だから、機敏に行動をするようにしよう。

頑張った運動クラブ

今年度の成果

我々新聞部で、各運動クラブの今年一年間の主な試合結果、又出来事などを、簡単ではあるが調べてみた。

まず、陸上部である。このクラブは、インターハイ予戦通過、北部九州大会で準決勝まで進出、又千六百mリレーでも県体会に出場した。県選手権で上位入賞その他まだまだ数々の輝かしい功績を残している。

庭球部は、男女共に数々の試合で入賞している。男子は国体予戦で個人五位までいったし、女子も若戸大会で優賞などである。

激しいスポーツの一つでもある、ラグビー部は、北九州大会新人戦で優勝している。

グラウンド一面を、走るサッカー部は、県体会に出場している。しかしおしくも一回戦で敗退している。北九州大会では、一次予戦を通過している。

バスケット部は、県体会に出場している。そして北九州大会で、三位入賞という輝かしい功績を残している。

一対一の、技と技の勝負である、柔道部は、インターハイベスト8に出場している。又新人戦では、二回戦まで出場している。

剣道部も数々の試合の中で好成績をあげている。

モントリオールでも、大活躍だった体操日本の、体操部も技と力で、県体に出場している。三年生、二年生合わせて十人が、種目別で出場している。新人戦でも数々の賞を受けている。県体会には、三名出場して受賞してきている。

この他にもまだまだ、多くの試合で、多くの賞を受けたクラブはある。山岳部ハンドボール部、弓道部、野球部、バレー部等である。

今年振わなかったクラブは来年、又その次の年へとがんばってもらいたいものである。これからも部活動は活発にゆきたいものだ。

そして、来年こそは、ゼヒ～、栄冠を。

祝卒業

若高戯評

礫陵言

大学を卒業して思い出す友達が二人いる。

二人共大学入学後、すぐに知りあった。一人は入学後寮で同じ室で知りあった。あとの一人は寮の室替の後に同じ室で知りあった。

最初の友達は、伊勢から大学へ来ていた。名前を「森」という。卒業するまで名古屋弁がよくならなかった。森君は私とは性格が正反対である。じつに頑固で一度言った事は必ず守らなければならず、非常に友達としては附合にくい友達だ。ある時買物を一緒にする約束をしていた事があった。彼は待合せの場所に4時間待っていたそうだ。その後私と彼は全然附合をしなかったが私が謝ったので又附合を始めた。彼は大学生活で家からの送金を貯金して、アルバイトで生活をしていた。その為卒業が三ヵ月遅れた。変った男である。

後の友達は愛媛の西条から来た「高石」という。彼と私は非常によく性格が似ている。高石とは森と較べものにならないほどよく行動し、よく遊んだ。一番の思い出は春に京都へ一緒に行った時嵐山でボートから保津川へ落ちた。花見のシーズンで観光客の多勢いる中を走って帰った時は何んとも恥ずかしい思いをした。森と高石は森が暗で高石が明のようだ。森とは性格が違いすぎるから友達なのだろう。高石とは性格が似ているため友達だ。一番自由な時間が持てる時に出来た友達は忘れることが出来ない。近くにいる友達は、友達としてよくわからないような気がする。遠く家族と離れて一番自分の自由な時間が持てる時に出来た友達はいいものだ。

昔なんだ坂こんな坂若高坂

よくぞ通った三年間

第二十八期生　卒業おめでとう

これがあるゆえ学校へ

思い出に残る行事の中で

みちのくの旅へもう一度〈修学旅行〉

一昨年（昭和五十年）九月二十八日から十月二日まで、東京、南東北、名古屋への修学旅行が行なわれた。一人の不慮の事故死により、卒業生にとっては、生涯忘れることのできない感慨深いものとなっていることであろう。

二十八日、新幹線ひかり一〇一号は東京へと向かった。途中で雨になり、富士山は見ることができなかった。東京に到着すると事故の悲しい知らせが待っていた。バスの中で一分間黙悼をし、冥福を祈った。死んでしまった友の分まで旅を楽しもうと、思いも新たに旅路は進む。

皇居、国会議事堂を見学。その後、旅館に到着し、まもなく、自由行動。この自由行動は、貴重な思い出の一つになっていることであろう。

二十九日、日光で東照宮を見学し、五十里ダムを眺め、会津若松へ進む。いよいよ「みちのくの旅」である。

三十日、桧原湖でバス十台が合流し、五色沼へ、幻想的な何ともいえない美しさを持っていたが、ゆっくり見ることができず残念であった。次に黄熱病の研究で有名な野口英世博士の野口記念館へ、彼の生家などを見学し浄土平に着き、吾妻小富士に歩いて登る。昼食後、荒城の月の詩碑で名高い青葉城を見学。夕方松島で五大堂を見学し、四階に分宿し、自由行動を楽しんだ。

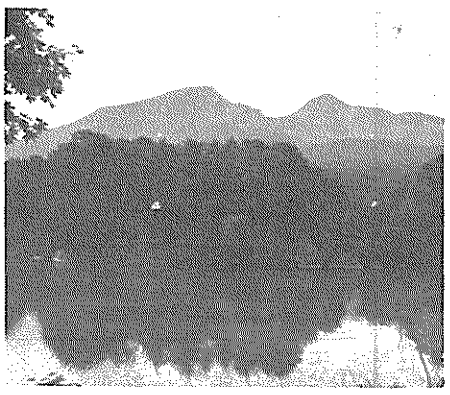
十月一日、瑞巌寺を見学。ここは大みそか全国で一番最初に除夜の鐘が鳴り始める所だそうだ。僧の修行のための洞穴が多かったのが印象的だった。

十一時、松島をあとに、フェリーに乗り込む。二十数時間の楽しい船旅であった。各クラス共、この船旅で団結が深まったようである。

二日、名古屋へ到着。陸地におり立った時はホッとした。まだ波にゆられているような気分であった。

熱田神宮と名古屋城を見学し、十四時、小倉への帰路へ着いた。全員無事に旅行を終えた。

帰ってからも旅行中の思い出話は、つきることがないように思われた。悲しい出来事のあった修学旅行だったが、楽しい思い出もたくさん残っている。



桧原湖

技の祭典〈体育祭〉

VICTORY……

なんと感激的な言葉でしょう……そして、この〝勝利〟を目指して技を競ったあの生気に満ちた体育祭――。

わずか三年間の中でこの艶やかな〝技の祭典〟は、それぞれの思い出の中に大きなウエイトを占めているはずである。学年対抗という競い方は、四五〇名のまとまりを作り、趣向を凝らした大胆な応援合戦はさらにそれを固いものとした。とりわけ男子にとっては難規定の重量運搬……後に「あれは足腰の強靭な者が速い。」「いや、重心の低い者がより速いのだ。」という論も飛びかった。

また、三年生女子の華麗にも悩殺的なダンス。

クラス対抗リレーは、さすがに年を増すにつれて迫力も増した。

誰もが好奇の目を向けた、男女の混合リレー。

女同志の葛藤を目のあたりに見せられた棒引き。

そして三年生にとって、何といっても忘れられないのは山車造りであろう。

毎日遅くまでかかって、愛すべき恩師の姿を、リアリジュウムの追求に徹し、かつシリアスに造りあげた立派な山車。これはやはり、造り上げるまでが楽しいものかもしれない。日頃、放課後になると、クラブに、家にと散っていくクラスメートが夕方暗くなるまで頑張って、さすがに晴の舞台では、メインを華々しく飾った。

もうひとつは、体育祭の後のファイヤーストームである。燃え上がる山車の周りを、手に手をとって踊ったフォークダンスは、最大の感激であり、誰もの心に喜びを（あるいは自尊心の破壊を）来たしたであろう。

若高名物のやぐらを組むことができず、私設応援団さえも、

襟が曲がってるヨ

に達した。

楽しかった体育祭……

三年生のみに許される、感慨深き後夜祭と共に、それぞれの心に刻んでいてほしいものだ。

年々向上へ〈文化祭〉

ここ三年間の文化祭はいろいろと波乱をよんだ。

まず、四十九年度の文化祭であるが、物理教室と体育館二階の更衣室で盗難、翌日には飲酒という、二つの大きな問題をひき起こしてしまい、歯切れの悪い文化祭に終わってしまった。

次に、五十年度の文化祭であるが、前年の事件もあ

祭のマンネリ化と生徒諸君の今一つの盛り上がりの無さに原因があったのかもしれない。

そして、去る九月四・五日に催された五十一年度の文化祭でもそれは云えたようである。鳳紀面では大きな貢献をきたしたが、盛り上がりの面ではまだまだといったところだ。

その他として、美化面の問題がある。文化祭にはつきものである来客の土足とゴミの散乱、それに近年では在校生の土足も多くなってきている。――これは、大いに反省するべきである。

ただでさえ、学校行事が少なくなってきているのにこの上、文化祭の廃止では我々にとって本当にむなし

クラスマッチ

昨年、十二月の中旬から下旬にかけて、恒例のラグビークラスマッチが行なわれた。これは、毎年三年男子がクラス対抗で、三年間鍛え上げられた体力を競うものである。選手の迫力にも劣らぬ女子の応援の姿も又、見物である。

最上級生の貫禄ある体は見物する下級生を今さらながら圧倒させるものがあった。

今年は厳寒の折、あられ混じりの冷たい雨の降る中ゲームが進行された。

選手は泥にまみれ、必死

先生宅訪問

政治ひとすじ

政経　中村先生

今回は、三年生（特に女子）に大変人気のある政経担当であり、また新聞部顧問でもある中村先生のお宅を訪問してみた。

二月六日、我々新聞部員六名は苦心の末たどりついた先生のお宅で、コタツを囲んでさっそく質問を始めた。

―出身校は―

八幡高校を経て、西南学院大学へ。

―先生になられて何年目ですか―

今年が初めて。（エッ!?まだ二十三才?）

―本当にやりたかったのは―

政治活動か、教育か。

―尊敬される方は―

戸松慶議。（知らんなア）

―好きな言葉は―

堅忍不抜。

―初恋は―

ウ〜ン…（だいぶ考えて）忘れた。（アゴ?）

―先生の理想の人は―

今のところ全く考えていないね。

―高校時代つきあった人は―いたよ。（ムムム…）

―相手の人は―

（解答なし…残念）

―男女交際について―

（一人の若者として）勧めないけど、本人同志の意志によるものだと思う。でも学校でベタベタしているのはきらい。学校という場を考えてけじめをつけてほしい。

―今度、転勤されると聞きましたが―どうなるか全くわからない。

―受け持っていた三年生が卒業していく今のお気持は―

ものすごくショック。ともかく力が抜けてガクッとした感じ。

―学生時代の思い出は―

学生運動…色気も何もなかったね。

―学生時代は下宿だったんですか―

YES。

―下宿はどうでしたか―

おもしろかった。地方からいろんな方言を持った人が集まって、その中で最も強い方言につられていった。後輩などの関係もできたよ。（ワ〜楽しそオ〜）

―学生時代にやったスポーツは―

（大学の時）ボクシング・空手、段はないけど柔道も…。（スゴイ!）

―夢中になっていることは―

政治のことばかり。

―好きなTV番組は―

すもう・プロレス。ともかく暴れるもの。

―生徒の喫煙について―

絶対に嫌いだね。学校のトイレなど、人の見えない所で喫煙をやることは大変卑劣なことだと思う。若者ならばけじめをつけて正々堂々と―。

―今の若高生について―

若者は、どこの学校でも同じ。違うのは先生と体制。生徒側は大変良い。問題は教師側にあるからうんぬん言えない…。

こうして、さらに話は部活動、政治…と移っていき、次第に熱のこもっていく先生のお話にいつの間にか我々は吸いこまれていった。そして早くも三時間が過ぎ去り、先生と記念写真を撮った我々は、なごりを惜しみながら、晴れわたった冬空の下を帰路についた。

四十九年度

①フランスから世界最高?の美女〝モナリザ〟のおこし、百五十万人と対面（4・20）

②オカルトブーム到来、エクソシスト口火を切る（7・13）

③全権選挙の糸山英太郎議員国民に挑戦（7・24）

④ニクソン大統領ついに辞任（8・8）

⑤爆弾テロ三菱重工業本社一

⑥巨人V10ならず、長島燃一テレビ出演し強気の発言をする（9・1）

⑦佐藤栄作元首相ノーベル平和賞を受賞（10・8）

さよなら　SL

おこす（10・22）

⑪フォード大統領来日（11・18）

⑫川上監督引退発表長島新監督誕生（11・20）

⑬田中首相ついに退陣（11・26）

⑭辞書の三省堂、事実上の倒産（11・26）

⑮自民党の新総裁三木武夫氏誕生（12・4）

⑯妻と娘を車ごと海に沈めその三億円の保険金をねらった男

（10・14）

⑨中華人民共和国の

⑩新幹線博多駅乗り入れ（3・14）

⑱レコード大賞、森進一襟裳岬（12・31）

⑲長野県大町市の青木湖に超満員のスキー客送迎用バスが転落二十四人が死亡（1・1）

⑳喜劇の王様チャールズ・チャップリンにイギリスナイトの称号『サー』が贈られる（3・4）

㉑新幹線博多駅乗り入れ（3・14）

4kℓの重油が瀬戸内海に流出（12・18）

毎度有難うございます
小・中・高、教科書、参考書
新刊書籍、雑誌、辞典
石松書店
本町銀座　TEL(761)2415

ヤングマン全員集合!!
マックレガー
トロイ　春の新作品が揃いました
クロコダイル
明治町銀天街
MEN'S WEAR
ファスト
(761) 4198

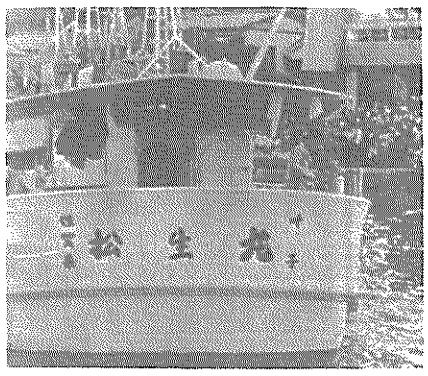
カメラ&8㎜専門店
アサヒ・フォト・ラボ
北九州市若松区本町3丁目6－14
TEL.751－0751

ひっぐ・あっぷ

❖三年間の重大出来事❖

五十年度

①パラのほほえみ、エリザベス女王御来日（5・7）
②日本女性登山隊の田部井淳子副隊長がシュルパのアンツエリンと共に女性初のエベレスト登頂に成功（5・16）
③佐藤栄作元首相死亡（6・3）
④スエズ運河八年ぶりに生き返る（6・5）
⑤三木首相佐藤栄作元首相の国民葬の席でノックアウトされる（6・16）
⑥沢松和子女子テニス選手ウインブルトンを制覇（7・5）
⑦海洋博覧会（7月～1月）皇太子御夫妻ひめゆりの塔で火炎瓶を投げつけられる（7・17）
⑧米ソ宇宙でドッキングアメリカ『アポロ』ソ連『ソユーズ十九号』（7・18）
⑨興人が大型倒産、負債総額約千五百億円、関連会社分を入れると約二千億円（8・28）
⑩フグ漁船『松生丸』北朝鮮の警備艇に銃撃され二人死亡、二人負傷、死亡者遺族には弔慰金二万ドルが支払われる（9・2）



松生丸事件

①天皇、皇后両陛下御訪米（9・30）
⑫主任制度あちこちで対立した直後に逮捕される（12・11）
⑬赤ヘル軍団強し、栄光の巨人軍最下位（10・15）
⑭十年間の捜査に終止符、三億円強奪事件に警視庁及ばず（12・10）
⑮SL最後の雄姿（12・14）
⑯五つ子誕生〝ちょっと頑張りすぎました〟（1・31）

五十一年度

①モントリオールオリンピック開催（7月）
②ナディアコマネチ、モントリオールオリンピックで史上初の10・0を出す（7月）
③市来先生ソ連へ一年の留学に旅立つ（9・10）
④台風十七号の影響で長良川決壊、修学旅行危ぶまれる（9月）
⑤ホステスさん二階の窓から落ちてビルの谷間にはさまれる（9月）
⑥田中角栄元首相収賄罪で逮捕される、ロッキード疑獄いよいよ大詰めか（9月）
⑦巨人軍の王貞治選手、ハンクアーロン達成（10・14）
⑧栄光の巨人復活V1達成（10・15）
⑨栄光の背番号3、長島引退（10・14）
⑩『文春』田中金脈を堀り尽きる（10・12）
⑪『庶民の城』十九戸を流失ビルを襲う。予告電話直後玄関先で爆発（8・30）
⑥台風十六号多摩川附近の
⑦巨人軍の王貞治選手、ハンクアーロンにつづいて715号ホームラン達成（10・14）
⑧栄光の巨人復活V1達成
⑨栄光の背番号3、長島引退（10・14）
⑩『文春』田中金脈を堀り尽きる（10・12）
⑪アメリカ新大統領にジミーカーター氏当選（11・3）
⑫国鉄一挙に50%値上げ（11・6）
⑬田中角栄元首相十七万票を得て総選挙に当選（12月）
⑭宝くじ、一千万円の夢に三人死亡（12・21）
⑮フランスの名優ジャンギャバン氏死亡（12月）
⑯レコード大賞、都はるみ北の宿から（12・31）
⑰青酸ナトリウムコーラで二人死亡（1・2）
⑱毛沢東主席死亡（10月）
⑲ソ連から日本のレーダー網の盲点をついてミグ25亡命（11月）

校長一言

『一期一会』の真心を

校長　松崎　猛男

卒業生諸君卒業おめでとう。諸君は栄えある若松高校卒業生として巣立つことになり、感慨無量なるものがあること、思います。

人生の中で高校時代程思い出の多い時代はないでしょう。心理学の上では、離乳期であり又自我の確立期であり、親への依頼と親からの独立という二つの心の葛藤に悩む中に、色々の生活経験を積んでいき、欲求に対する忍耐度も段々と養われて、ここに蛍雪の功なり晴れて卒業の栄冠を戴くことが出来たわけですから、人生の一つの区切りに対し鮮かな刻印を押したことになるわけであります。親や先生達や友人に対し感謝の気持ちと自分を信ずることの尊さを忘れてはなりません。

茶道で『一期一会』という言葉があります。今日の茶の湯に対し、自分の一世一度の茶の湯の会であるとの自覚のもとに、己の全身全霊を打ち込んで主人は客をもてなし、客は主人の心を心として、からっと晴れた碧空のような澄みきった心で一服の茶を戴くわけであります。そこには我他彼此の対立した畔はありません。和敬清寂の世界であります。

考えてみますに、今日一日が再び巡って来ない最期の一日であるように、本校で学んだ数年間も、永い人生から考えれば今日の一日と変らない最期の一刻でありましょう。いな我々の人生そのものも、永遠なる時の流れからみれば、誠に泡つぶの一瞬にすぎません。如露亦如電応作如是観と金剛経にありますが、我々は自分の人生の一瞬一刻を大切に生きねばなりません。一大事とは今日只今の心なりと正受老人も申しております。どうか『一期一会』の真心を、たゞ茶の湯の世界だけのものとせず、母校を巣立って新しい世界に出てからも、いな諸君の将来の人生に於ても『一期一会』の気持ちで人に接し、仕事に接し、大虚の廓然として洞豁なる如く、からっとした気持ちで正しく、楽しく、仲よくやって下さい。

今や日本を取り巻く世界の状勢は厳しいものがあります。次の時代を担う諸君は世界の人々から敬愛される日本人として学問を身につけ、徳性を磨き、体力を養うことが大切でしょう。国を愛する心が、世界の人々と仲よくする心と通じあうことが大切なこと、思います。一期一会・和敬清寂の茶の心で諸君の人生が、そしてこれからの日本・世界が正しく・楽しく・仲よく繁栄しますよう祈念致すと共に諸君の健闘努力を期待するものであります。頑張って下さい。

在校生へ一言

〝三年生より目立つな〟

三年生インタビュー

高校時代というものは、誰にとっても印象の深い、素晴らしい青春の一ページとなるものである。それは楽しい思い出ばかりで飾られるわけでなく、いいようのない悲しみや苦しみに悩まされることもあるであろう。それでもやはり、振り返ってみれば、ひとつひとつがなつかしい思い出となり、心の中に刻みこまれていくものなのだ。

こうした高校生活にピリオドを打とうとしている三年生の皆さんに、我々新聞部はインタビューしてみた。

○楽しかったこと
—いろんな行事
—女子クラスになったこと
—早弁
—体育祭
—渡辺先生と二年間一緒だったこと
—佐藤先生をひやかしたこと
○苦しかったこと
—試験の前の日
—モテすぎた
—追試に次ぐ追試の生活
—波乱に満ちた男性関係
—就職試験に二度も失敗した
—便秘
—大学に落ちた
—ないところが苦しい
—彼への思いが報われなかった
○三年間で一番凝ったこと
—クラブ活動
—勉強
—おかし作り
—フォークソング
—もちろんオトコ
—詩を書くこと
—追試です
○三年間で得たもの
—友情
—56kgの体重
—もちろん学力です
—うふっ!!彼です
—いじけ心
—どうしようもない成績
—一言、なし
○我々はあなたにとってどういう後輩でしたか
—常にいじめられ卑屈にさせられた
—いい後輩でした
—恐い、ただその一言
—すすんでる後輩でした
—かわいかった
○在校生へ
—頑張れヨ!
—三年より目立つな
—食堂の生存競争に負けるな
—常にかわいく
—若高を盛り上げよう
—先生と仲よく
—勉強は早めにしよう
○これからの抱負
—大学にうかりたい
—永久就職したい
—元気で働きたい
—いい社会人になろう
—卒業してみせます(!?)
○先生にひとこと
—もっと厳しく
—退屈しない授業を
—お世話になりました
—もっと生徒と会話をかわすべきだ
—いろいろとありがとうございました
—勉強しなくてすみませんでした
—佐藤先生、早く結婚して下さい
—頑張って下さい
—おねがい 卒業させて!!

雪の中でインタビュー

エッサ、ホッサ、山車のお通りだ

担任一言

一組　渡辺喜代登
今日迄我が儘も、甘えも許された温室育ちの君達であったが、明日からは、いよ〳〵社会人、自覚と責任を持って行動し、よき社会人として良識ある素直な若者であって欲しい。

二組　永野　素
新しい人生の出発に当って、何かを自分の全身全霊を傾けてやろうと決心しておれば必ず眼は輝いているにちがいないと思う。明日の日本を背負って立つという意気込みで、頑張って欲しいと思う。

三組　安武　久夫
環境汚染・資源有限と騒がれて久しくなりますが、高度成長を背影とし消費は美徳の価値感で幼児期を過した諸君等…三つ児の魂は百までといいます。諸君はやがて経験する欠乏の時代に適応できるかな。

四組　大庭　武
最初まとまりのない様なクラスが、体育祭を境に、まとまったクラスへと変っていった事が、大変うれしく感じます。諸君の責任は重いだろうが、自分を大切に毎日を過ごしてください。

五組　佐藤　豊
古人、人生を旅といへり君、爾後、荷を負ふとも、歩々、足をすすむるをやむるあたれず。前途、険し。峨峨と聳ゆる山あるべし。滔滔と流るる河あるべし。されども、君、意気消沈することなかれ。路上に野草清楚なる花咲かせり。頭上に青大、無辺に広がれり。君、野草の美を忘るるなかれ。君、青天の広漠たるを忘るるなかれ。

六組　三原　重光
増々混迷を深める利潤社会の中で、どう身を処していくかは、暗闇の中でかすかに漏れてくる一条の光を捜すようなものです。大地にしっかりと脚を踏んまえて、今後頑張って下さい。

七組　倉田　賢次
夢は希望ほど現実的ではないし憧れ程淡いものではないと思います。それは希望と憧れが手をつないで恥らいながら、そのエッセンスが、ほのかに香りを放つもの、そんなものではないでしょうか。

八組　上野　昭治
「温故知新」高校時代は常に習い、又本等により自分である知識を得たと思うが、社会に出ると、人から習う機会があまりない。それ故に自分から積極的に思考し、開発していくことが必要である。

九組　井上　光徳
自由と権利。それぞれの人がそれぞれの立場で義務をはたし、それぞれの能力の基に行動しその中から生まれる言葉が自由であり権利ならば本当に生きてくる。「吠賣人之心賣已」

十組　内田　弘幸
云った事は責任をもって実行する。云って、理解をさせて、実行すると理解しても良い。責任をもって実行する人間になって下さい。

一つのことを終え、また新しい出発をしようとしている三年生の顔には、高校生活への満足感と、やろうとする気迫が感じられた。

表現はそれぞれ違っても若高をよりよく・・・・と思う気持ちは、皆同じなんだろうと思われる。そういう先輩達の気持ちを無駄にすることのないよう、私たちは原点に戻って、もう一度、考え直す必要があるのではないであろうか。風紀は乱れ、三無主義になりつつある私たち・・・若者の特権をもって、何事にも挑戦し、瞬間〳〵を悔いなく過ごし、素晴らしい青春を送ろうではないか。若高のために、そして何より、自分自身のために・・・・・

卒業生の皆さん、頑張って下さい。

おしゃれと　くらしの
ファッションデパート
若松　丸柏
開店10時・閉店6時／木曜定休
TEL代表（761）1231

龍そば
本町銀座　TEL.(771)4320　TEL.(771)4047

天ぷら　青柳
本町二丁目10—20　TEL.(761)3079　(771)5779

図書館の利用を活用的に

＜利用状況向上へ＞

北九州一を誇る、我が校の図書館。その図書館の、利用状況を、今回は調べてみた。その結果は…？

読書や勉強で図書館を利用する時に、皆さんは、どんな事を考えているであろうか。

図書館の利用状態について、不信に思っている人はいないだろうか。

「うるさいナー」「もっと静かにしてくれないかナー」なんて、特に昼休みの利用者は感じるのでは……。冬の寒い日には、図書館を暖房の入ったダイニングルームと感違いしている人が、多いようだ。大きい声で話したり、帽子をかぶったままだったり、コートを着たままだったり、机にすわったり……etc。

中には本を読んでいる人がいるけど、少数である。また勉強をしている人もいるが、もっと冷静な態度が欲しい。

こういう状態、すなわち「本」の利用ではなく、「部屋」の利用の感じがするのである。図書館の荘先生は、〝これから、もう少し利用して欲しい。読んでもらいたい。そして生徒のための本をもっと揃えたい〟と話されていた。

尚、図書委員の活動、出席状況が悪いとのこと――図書委員のみなさん、もっと真面目に！さぼりは禁物ですぞ。中には、真面目な人がいるそうだが、出席は全体の三分の一程度だそうだ。

次に、貸し出し状況について、最近、本を借りる人が、増えてきたそうである。

本の貸し出し冊数は、一日平均二十冊だそうだ。尚日が激しいとのこと。

五月は、二百三冊、六月は、二百七冊、七月は、二百三十七冊で、十月は、三十四冊、十一月は、三百八十冊（今年度の統計）、また全体的に去年より、貸し出し冊数が多いそうだ。

次に、事務長の話を聞いてみた。

「利用度（生徒数に対して）がまだ少ない。これはＴＶの影響かもしれませんけれど。立派な図書館を持っているのですから、もっと利用して欲しいですね。

また生徒が読みやすい本が少ないので、もっと揃えたいですね。」

とおっしゃっていた。

また、図書係顧問の久保山先生は、「生徒が、興味をもって読める本が少ない点が惜しい。北九州でも自慢できる図書館で、とても充実しているが、一階の視聴覚室がまだ、十分な機能を果たしていない。もっと利用法を考えなくては。」と述べられていた。

ここで、図書館のあり方や、図書館の利用について今一度考え直してみるべきではないだろうか。

また、勉強だけの図書館でなく、読書をするという本来の意味にもどるべきではないだろうか。

また、本に興味をもとう。

人生一番長い五ケ月でした

モスクワ便り　市来先生

第百四十四号礫陵新聞、クローズ・アップは、部員数総勢二十五名、日夜きびしい練習を重ねている籠球部にスポットをあててみた。

練習の模様を見ていた我々は、驚きの声をあげられずにはいられなかった。ボールは、まるで魔術にでもかけられたかのように、部員の手の中で、思うがままにあやつられている。そして、ゴールめがけてなげられたボールは、吸いこまれるかの様にリングの中へ…。

本当にカッコイイの一言だった。そんなカッコイイ人達に、無条件にかつ、しぶとくインタビューし、我々は、ペンを走らせたのである。

クローズアップ

県大をめざして

バスケット部（男子 女子）

まず、はじめに男子部員の方の声を聞いてみよう。

―部員数は？

〝十六人です〟

―入部の動機は？

〝中学生の時、やっていたから〟

―部のモットーは？

〝まじめに練習することです〟

―これからの目的はありますか？

〝（当然という顔で）県体会出場です！〟

―楽しいことは？

〝合宿で、いっしょに生活して部員の心が一つになった時ですねえ〟

―それでは、最後に一言。

〝身長がほしいなあ〟ということでした。

次は、我々も笑いっぱなしで、楽しかった女子部員のみなさんの声を聞いてみよう。

―部員数は？

〝九人です〟

―入部の動機は？

〝先輩からさそわれた〟

―クラブの雰囲気は？

〝仲がいいこと〟

―部のモットーは？

〝努力と忍耐かなあ〟

―これからの目的はありますか？

〝よい成績をあげることですね〟

―楽しいことは？

〝（顔をみあわせて）たまの休み（？）とか先輩の人達とのおしゃべりかなあ〟

〝それと食べること！〟（全員一致で大笑い）

―いやなことは？

〝練習かなあ（？）〟

―それでは、最後に一言。

〝部員、大募集で～す〟ということでした。

とにかく、練習もいっしょにやっている仲のよい籠球部のみなさんへ、貴重な練習時間をさいて、我々のインタビューに協力していただき、本当にありがとうございました。

ことに十月から十二月、太陽の姿はほとんど見えず、重い重い霧が頭上にのしかかり、そこらの古びた建物から、髪をかき乱した、ラスコーリニコフがひょいと出てきても、ちっとも不思議には感じないような日々、教職を捨て、家族を放りだし……。

これでよかったのだろうか？ひょっとしたらとんでもない馬鹿なことをしたのではあるまいか――。

そんな疑念に苦しみました。あの苦しかった日々、僕を支えてくれたのは家族や友人たちの励ましであり、特に三年六組のみなさんが、送ってくれたすばらしい写真と寄せ書きでした。

教職という仕事の尊さを涙とともに、かみしめた次第でした。

一月に入るとともに、気温はぐっと下り（マイナス二十度～二十八度）そのせいか霧はなくなり、太陽もときには顔をのぞかせます。そして、今、気分も落ち着いてきました。

「コロンブスは、アメリカを発見したときではなく、発見しようとしていたときが幸せだった」とは、ドストエフスキーの言葉です。ロシアの四季を肩で知ることは、ぼくの空しい夢でした。ほんとは、いつまでも夢であった方がよかったのかもわかりません。しかしぼくは今、モスクワにおり、ロシアの冬を経験しているのです。これがぼくにとって現実です。これがぼくの人生であったなら、これを精一杯生きることだろう、と今は思っています。

変なモスクワ便りになりました。ほんとは、モスクワの学生生活や、ロシアの冬について書くつもりでした。生きるとは何か？家庭とは？祖国とは？――いやおうなしに更めて考えさせられた五ケ月間でした。

重い重い霧が頭上にのしかかり、そこらの古びた建物から、髪をかき乱した、ラスコーリニコフがひょいと出てきても、ちっとも不思議には感じないような日々、教職を捨て、家族を放りだし……。

これでよかったのだろうか？ひょっとしたらとんでもない馬鹿なことをしたのではあるまいか――。

そんな疑念に苦しみました。あの苦しかった日々、僕を支えてくれたのは家族や友人たちの励ましであり、特に三年六組のみなさんが、送ってくれたすばらしい写真と寄せ書きでした。

教職という仕事の尊さを涙とともに、かみしめた次第でした。

一月に入るとともに、気温はぐっと下り（マイナス二十度～二十八度）そのせいか霧はなくなり、太陽もときには顔をのぞかせます。そして、今、気分も落ち着いてきました。

「コロンブスは、アメリカを発見したときではなく、発見しようとしていたときが幸せだった」とは、ドストエフスキーの言葉です。ロシアの四季を肩で知ることは、ぼくの空しい夢でした。ほんとは、いつまでも夢であった方がよかったのかもわかりません。しかしぼくは今、モスクワにおり、ロシアの冬を経験しているのです。これがぼくにとって現実です。これがぼくの人生であったなら、これを精一杯生きることだろう、と今は思っています。

変なモスクワ便りになりました。ほんとは、モスクワの学生生活や、ロシアの冬について書くつもりでした。しかし若いみなさんに語りかけようとすると、どうしてもこうなってしまうのです。許して下さい。

勉強の方は、「三ヶ月でロシア人なみにする」という先生たちの意きごみにも拘らず、相変わらず、九州弁調のロシア語をたどたどしく話しています。日暮れて、途はまだまだ遠い！

若高のみなさん、勉強してください。卒業生のみなさん、ますます勉強してください。御健闘を祈ります。

一九七七・二・四

他校訪問

高台にそびえ建つ

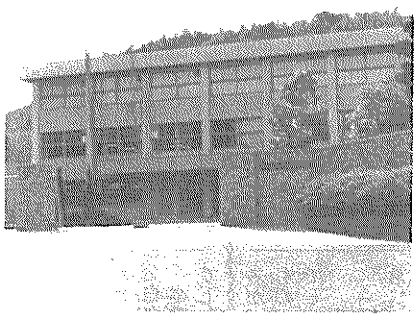
☆八幡高校

去る二月五日我々新聞部員六名は、小雪の散りばめく中を小丘にそびえる、八幡高校へと向かって行った。

同校は、大正八年に創立、現在の位置に移ったのは、昭和四十五年とのこと。全校生徒数は一、三五七名で男女の比率は、三対二で、一学年の内、男子クラスが、四クラスもあるそうである。

同校は、小丘にそびえていて停留所からは遠いせいもあるのか、タクシー通学をする生徒がいるそうだ。無理もないだろう。延々と続く高校への坂道を登れば、誰もがため息をつかされるような所に、そびえ立っているからである。移されて間もないせいもあってか、新々しい感じがし、この建物からくる大きな威圧が、心の奥底に響いた。内に入ってみると、生徒さんらが帰られたあとの沈静な教室の片隅に、同校の先生であった中村堅一という方が、この高校に〝フーコー振子〟を寄贈されていた。フーコー振子とは、フーコーという人が一八一五年、パリで直径三十センチメートルの鉄球を六十センチメートルの針金でつるした振子を作って地球の自転を説明しようとしたのである。

そして、ずっと入って行くと、上ばきのロッカーの鍵が必要のない、棚の上ばき入れがあったのには驚いた。鍵もかけずに、盗難などには会わないのだろうかと、推測してみたのだが、うむがやすし、



と感ぜられた。このような問題が起こってくるのは〝誰の為の生徒会であるのか〟という事を、生徒が心ならずもわかっていても、見抜こうとしない心の一面から起こって来たのではないだろうか。誰もが、この様な心は持っているだろう。しかし、現在の生徒会の状態ではいけないという、強い意志をもった生徒さんも、多勢いらっしゃると思う。

我々は、再びこの地へ足を運びたいと思いつつ我が母校への足どりを急いだ。

この頃とくに盗難が多いそうで、傘やスリッパなどを、無断拝借なさる方がいるそうで、ほとほと迷惑なされている次第だそうです。

この学校の校訓として「誠鏡」が掲げられているが、校風はいたって自由であるように感ぜられる。（特に交際面は活発であるそうだ。）しかし、ただ自由だからといって、風紀が少しも乱れていないということには、感心した。ここでは毎月服装検査が行なわれ、きびしい忠告を受けているそうであるけれども、いたって、自己の意志を貫いているような面が、うかがえる。

この学校で今問題となっているのは、生徒のための生徒会であるべき事が、生徒の関心のなさゆえに、浮遊している状態にあるという事である。総会において我校にも伺える汚点があり、こんな脱落している生徒総会でいいものか

編集後記

三年生の皆様、卒業おめでとうございます。

新聞部の先輩方も無事卒業との事、先輩思いの我々もほっと一安心です。

この度の新聞は一年生の手がける最後の新聞ということで〝よし！頑張るぞ〟といつになく張り切っていた記者や、反対に〝まあ、どうにか出来るでしょう〟と大変温厚かつ横着に構えていた記者もいたようです。いずれにしても、ハエの羽風ほどの先輩風を吹かせて、〝一年生！次号からは先輩を頼っちゃいけん！〟とやさしく悟す姿も見られました。

この様に後輩思いのやさしくユニークな先輩ばかり！　ぜひ一度新聞部へ！

皆さん、来年度も礫陵新聞をヨロシク！

カップをキープできる店
珈琲紅茶専科
しらべ
若松区本町3丁目☎771-7000

器具及び豆の挽き売りも致しております。

あなたに愛される
メガネを作ります
メガネ・コンタクトレンズ
アイチ眼鏡店
若松区本町三丁目8-24
TEL（761）3312

ジーンズ ＆ 学生ズボン
ジーンズ・ショップ ワキタ
明治町銀天街　本店(771)2485　支店(771)6247